

5. 調査の方法

調査票の配布・回収は調査員が行い、調査票の記入は調査対象者の自計方式による。

6. 調査の集計および公表

国立社会保障・人口問題研究所が行う。

(山内昌和記)

比較家族史学会第50回記念大会

比較家族史学会の第50回研究大会が2008年6月21日（土）～22日（日）の2日間にわたって東北大学川内北キャンパス（宮城県仙台市）で開催された。今回の大会は、1982年に学会が発足してから50回という節目の大会であったため、「戦後日本の家族研究と二世紀の課題」という統一テーマのもとで2つのシンポジウムが企画された。あわせて、3つの一般報告と記念講演も行われた。各報告のタイトルは以下の通りであり、大半が人口・世帯に関連した内容であった。

シンポジウム1「戦後日本における家族研究—総括」

司会 嶋陸奥彦（東北大学）・三成美保（摂南大学）

「戦前・戦後日本の家族研究と家族社会学—連続性と非連続性、個別化と総合化」

池岡義孝（早稲田大学）

「ヨーロッパ家族史の影響—一九七〇年代を中心に」

若尾祐司（名古屋大学）

「女性史・ジェンダー史の展開—一九八〇年代以降の変化」

長野ひろ子（中央大学）

「近代家族の確立とその揺らぎ—戦後家族法学の意義と展開」

二宮周平（立命館大学）

「人口政策の展開と家族研究—一九七〇年以降の少子化対策との関連で」

廣嶋清志（島根大学）

「『家族』なるものの揺らぎ—人類学における家族研究の可能性」

小池誠（桃山学院大学）

記念講演

「ドイツと日本の比較人口史 一八〇〇—二〇〇〇年」

Josef Ehmer（ウィーン大学）

新進研究者報告

司会 政岡伸洋（東北学院大学）

「近世大名家の家族と政治—薩摩藩島津家を中心に—」

松崎瑠美（東北大学・院）

「ある名子の家意識—家意識の生成・変容」

大野啓（佛教大学・非）

「モラルエコノミーの外？ 国際結婚における外国人女性配偶者」

横田祥子（東京都立大学・院）

シンポジウム2「格差社会と家族」

司会 大藤修（東北大学）

「格差社会と家族の変貌」

山田昌弘（中央大学）

コメント 國方敬司（山形大学）

「近代日本の経済発展と家族・世帯経済」

谷本雅之（東京大学）

コメント 下夷美幸（東北大学）

(山内昌和記)